

1)

松尾 エネルギー経済研究所の松尾と申します。今日はありがとうございます。

1点補足としまして、今回非常によく聞かれることが1つありまして、いま鎌形さんのほうから、対策を取った場合の経済の影響ということをお話があったと思いますが、逆に対策を取らない場合に、地球が温暖化していつているんな被害が出てくると。その被害に対するコストもあるんじゃないかという質問を非常によく受けます。

当然、これについても検討はしてまして、実は環境研究所さんのほうで、これはかなり詳細に検討なさっています。首相官邸のホームページをご覧になるとダウンロードできますので、ぜひご覧いただきたいと思います。結論だけ言いますと、非常に大きなコストが出てくるので、これは重要な問題だと考えなくてはいけないと思っています。

ただ、じゃあ、なぜいまの話にそれが出てこないかということですが、基本的には、日本だけが削減をしたところで、世界全体の排出量にはあまり影響しないんですね。やはり世界全体の排出量に関係してくるのは、中国だとかインド、アメリカといった国であると。

そうすると、われわれとしては、世界全体を減らしていくためには、彼ら、中国だとかアメリカに削減するように働きかけなくてはならないと。そういう意味で、先ほどから散々議論になっています、公平性という指標が出てくるということで、われわれはこういうことを検討しているということをご理解いただきたいと思います。

ですので、われわれが今回主に検討しているのは、公平性ということが1つ。それから対策を取った場合に、国内の経済の影響がどうなるかということが1つ。その2点を中心にやっているということで、先ほどの対策を取らない場合の被害も重要ではあるんですけども、それは話としては別の話になるということをご理解いただきたいと思います。

2)

松尾 先ほどからお話にありました、モデルに表現できる部分、できない部分もあるんですが、当然、そのモデルですべてのものを表現できるわけではないというのはその通りです。ただ、今回は複数の研究機関で可能な限り検討をしていますので、そこでモデルで表現できないものというのは、なかなか計量化できない、つまり現段階では見通すことが難しいものだということです。

本当に確実に削減を行っていくという、確実性を持った目標を考えるためには、やはりあ

る程度見通すことのできるもので削減を行わなければいけない。モデル以外のものは、もちろんモデル以外のところで削減できるかもしれないんですが、それはある程度不確実性があると。それは1点ご理解いただきたいと思います。モデルをやっている立場としては、できるところまではやっているということを主張したいと思います。

以上